

村の記録

金戸には昭和九年からの「協議録」と「重要記録」の綴りが残されている。

寄合の場所は戦前は区長宅であるが、戦後には中継所・専徳寺・保育所・公民館と移り変わっている。

「協議録」からは歴代の村役が分かる。区長などは複数年続けており、そして区交代毎に感謝状と金一封を贈っている。決して区長は無報酬でもなかったが手出しが大きかったのである。宮塚市郎は大正十三年から昭和八年までの十年も勤め、さらに国難時の昭和十四年から十七年まで再び区長に就任している。十四年もの長き村の世話を担うには相当の経済的負担も大きかったと云える。

その宮塚区長に感謝状とともに労苦の記念品として、瓶懸一個（代金十五円相当）が贈られているに過ぎない。昭和十八年から二十年までの戦時に区長をした朝日八左衛門に感謝状ともに記念品代金一封（一〇〇円）が贈られている。その金一封が基準となったのか、昭和二十一年から区長手当の額

が年額一〇〇円と記され始める。因みに組長は三〇円、配給係は三〇円、使丁は八〇円となっている。また昭和二十年の村人足は普通人足男二円五〇銭女二円、特殊人足二円五〇銭、水廻人足二円五〇銭である。しかしながら昭和二十三年・二十四年頃までは、村人足は米が現物支給されている。

村人足は当時の日雇い賃金のめやすとなるが、昭和九年は「人足料ノ件、一日金五十銭」とある。昭和十一年の村人足は一人分五十五銭、水廻六十五銭。昭和十三年の村人足は六〇銭。昭和十七年の村人足八五銭であった。

戦後のインフレで物価は高騰し五年後の昭和二十五年になって村人足に男一〇〇円、未成年及び女性は八割と現金が支払われた。役員手当も組長・配給係・統計係各係賃年額三〇〇円と一〇倍もの金額になっている

村役の諸手当

配給制度は昭和二十四年まで続き配給係なる村役があった。その後順次撤廃されたが村の諸手当の変遷をみてみると時代の移り変わりも分かる。

昭和二十七年の諸手当は、

区長手当 一五〇〇円
前区長慰労金八〇〇円

組長手当 三五〇円

統計係 三五〇円

村人足 男一八〇円

女・未成年一五〇円

宮当番 八〇〇円・酒一升

使丁 当年米価一石を給する

昭和三十三年の諸手当は

区長手当 五〇〇円

前区長慰労金三十三より前区長一任

組長手当三十一年から支給せず

使丁 一三〇〇円

統計調査手当一五〇〇円

書記手当 村人足とす

村人足 男二五〇円

女二〇〇円

宮当番 一四〇〇円

昭和四十年の諸手当は

区長 一五〇〇〇円

会計 一〇〇〇円

使丁 二五〇〇〇円

統計係 二〇〇〇円

村人足 男六〇〇円

女五〇〇円

宮当番 一回付一五〇〇円

青年会 一〇〇〇〇円

老人会 三〇〇〇円

消防団 五〇〇〇円

電話料 月二〇〇円

昭和四十一年から

香典 小学生以上五〇〇円

昭和四十三年から

学校児童会 二〇〇〇円

昭和四十八年の諸手当は

区長 二八〇〇〇円

会計 五〇〇〇円

使丁 四五〇〇〇円

統計手当 二〇〇〇円

村人足 男一五〇〇円

女一二〇〇円

宮当番 一回付一七〇〇円

青年会 一二〇〇〇円

老人会 五〇〇〇円

消防団 五〇〇〇円

婦人会 五〇〇〇円

児童会 二〇〇〇円

香典 一〇〇〇円

平成十一年度の諸手当等は

区長 一〇〇〇〇円

区長代理 二〇〇〇〇円

会計 三〇〇〇〇円

組長使丁 一二〇〇円／戸

統計調査 五〇〇〇円

村人足 男五〇〇〇円

女四五〇〇円

宮当番 一回付一〇〇〇円

青年会 四〇〇〇〇円

老人会 一二五〇〇円

消防団 三五〇〇〇円

婦人会 四〇〇〇〇円

子供会 三〇〇〇〇円

香典 五〇〇〇円

昭和九年には「走りノ給料」とある

使丁手当は高く、昭和二三年には米一

石（一八〇〇円ほど）と高額とある。

村の走りであるが一人に一石とか一三

〇〇〇円は区長の三倍にもなる。特定

の人が専属にいたのであり、昭和五十

八年度の協議録では「新しく使丁が決

まるまで組長さん方に五分の一宛」と

あるから、その年まで各組の戸数に関

係なく分配していたであろう。昭和五

十九年度からは戸数割に一戸一二〇〇

円の分配基準が決まり組長が走りをする

ようになったものといえる。

記録には青年会が戦前からあり村の

重要な役割を担っていたことが分か

る。昭和一〇年に五円、昭和二十一年

一〇〇円を補助しているが、不定期で

あり必要なものが生ずれば支給してい

る。昭和二十五年に「青年会ヨリ申出

ノ際ハ協議スルコト」昭和二十九・三

十年は「青年会の事業計画により追っ

て協議する」昭和三十一年は「事業実

績により助成する」

昭和三十四年に定額六〇〇〇円が支給

されることになった。

消防団については、昭和九年に南山

田消防団統一についての村の取り組み

方が協議され、「小学校付近に一カ所

ポンプ置場を設置することを条件にす

ることを第一とすべき」としている。

また消防手の選定についても協議して

いる。

昭和一〇年の「重要記録」には、

「左記南山田消防手ヲ命ス、

角丸長一郎 宮本喜平 江久吉

片桐金蔵 宮塚壺口治

中仙道高光

左記南山田消防手依頼免職

竹山籐三郎 松田伊三郎

品川口太郎」とある。

その消防団には村としては助成が昭和

三十一年に協議に上り、昭和三十四年

から一〇〇〇円が初めて支給されてい

る。

南山田校下では昭和三十年代に創立

されている各種団体であるが、金戸地

区として助成され始めるのは老人会は

昭和四十年頃より、子供会は昭和四十

三年頃より、婦人は昭和四十八年頃

からである。

金戸公民館が昭和四六年一月二一七

日に竣工式が実施される。

